

## [ プログラム ]

- 14:00-14:10 開会の挨拶  
木野修宏（環境省 低炭素社会推進室長）
- 14:10-14:25 高橋潔（国立環境研究所）
- 14:25-14:40 Elmar Kriegler（ポツダム気候影響研究所）
- 14:40-14:55 James Edmonds  
（パシフィック・ノースウェスト国立研究所）
- 14:55-15:10 Rizaldi Boer（ボゴール農科大学）
- 15:10-15:25 休憩
- 15:25-16:25 パネルディスカッション
- 16:25-16:30 閉会の挨拶

## [ アクセス ]

東工大蔵前会館 1F くらまえホール  
東急目黒線・大井町線  
大岡山駅中央改札下車 徒歩1分



〒152-0033  
東京都目黒区大岡山 2-12-1  
TEL:03-5734-3737（インフォメーション）

## [ お申し込み ]

下記 URL からお申し込みください。  
※PCまたはスマートフォンからアクセスしてください

URL:

<https://goo.gl/forms/em5JtklPnYOe0FFY2>



## [ お問い合わせ ]

国立研究開発法人 国立環境研究所  
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2  
E-mail:aim\_nies@nies.go.jp

主催：国立環境研究所 社会環境システム研究センター  
環境再生保全機構環境研究総合推進費 2-1702

# 10/3 (火) 14:00-16:30

## 東工大蔵前会館 くらまえホール

入場無料・同時通訳あり

推進費2-1702 国民対話シンポジウム

# パリ協定の 実現に向けて 世界の進路・日本の進路

本シンポジウムは「平成29年度環境再生保全機構環境研究総合推進費2-1702パリ協定気候目標と持続可能開発目標の同時実現に向けた気候政策の統合分析」の研究助成で実施しております。

## 本シンポジウムのねらいと概要

2016年に発効されたパリ協定では、2°C目標や1.5°C目標などが示されているほか、各国に対して2020年以降の排出削減目標の深掘りや、長期低炭素発展戦略の提出を求めています。環境研究総合推進費2-1702では、世界及び日本を対象に、脱炭素社会とともに、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた研究を2017年度から開始しています。

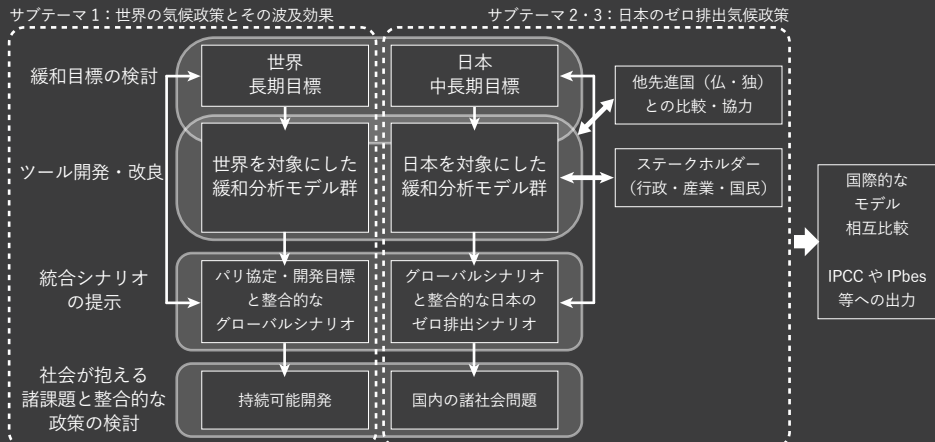
本シンポジウムでは、研究の概要とともに、本シンポジウムに先立って行われたImplications of Paris Research and Workshop Series\*の参加者をお招きして、ヨーロッパ、アメリカ、アジアにおける状況を報告していただきます。また、パネルディスカッションでは、日本がどのように排出削減目標や長期戦略を構築するかについて、発表者を交えて議論します。

\* Implications of Paris につきましては、下記をご参照下さい(英語)。

<http://www.globalchange.umd.edu/implications-of-paris-project/>

### 環境研究総合推進費2-1702 研究の概要

課題名：パリ協定気候目標と持続可能な開発目標の同時実現に向けた気候政策の統合分析  
課題代表者：高橋潔



サブテーマ1：パリ協定気候目標に整合的な世界の気候政策とその波及効果に関する分析(国立環境研究所)

サブテーマ2：わが国におけるゼロ排出の実現に向けた社会シナリオの検討(国立環境研究所)

サブテーマ3：わが国におけるゼロ排出の実現に向けたエネルギー技術対策の定量化(みずほ情報総研)

## 発表者の略歴(敬称略)

### 高橋潔

国立環境研究所社会環境システム研究センター室長。環境研究総合推進費2-1702の課題代表者。1996年に国立環境研究所に入所。以降、アジア太平洋統合評価モデルAIMの地球規模影響予測モデルの開発・応用に従事。IPCC第4次評価報告書・第5次評価報告書(第2作業部会)でそれぞれ「17章：適応」と「19章：主要なリスク」の代表執筆者を担当。

<https://www.nies.go.jp/researchers/100053.html>

### Elmar Kriegler

ポツダム気候影響研究所(ドイツ)において、持続可能な解決研究領域において副議長を務める。気候変動問題に関する統合評価やシナリオ分析、不確実性下における意思決定に焦点を当てた研究に従事する。IPCC第5次評価報告書第3作業部会の執筆者(第6章：Assessing Transformation Pathways)。IPCC1.5°C特別報告書の執筆者。

<https://www.pik-potsdam.de/members/kriegler>

### James Edmonds

パシフィック・ノースウェスト国立研究所(米国)において、チーフサイエンティスト及び研究フェローを務めるとともに、メリーランド州立大学で教授(公共政策)も務める。世界規模の統合評価モデル分野の先駆者の1人。現在の研究分野は、世界及び地域のエネルギー、技術、経済、土地、水システムの統合とその変化を対象としている。これまでIPCC評価報告書の執筆者として気候変動研究をリードしてきた。数多くの委員会や審議会にも貢献している。

[http://www.pnl.gov/science/staff/staff\\_info.asp?staff\\_num=5689](http://www.pnl.gov/science/staff/staff_info.asp?staff_num=5689)

### Rizaldi Boer

ボゴール農科大学(インドネシア)教授。同大学の東南アジア・太平洋地域における気候リスク・機会管理センターのセンター長。多くの気候変動適応策及び緩和策に関する国内及び国際の気候研究プログラムに従事している。世界気象機関の農業気象に関するRAVワーキンググループの議長を務め、GHGインベントリに関してタスクフォースビューローメンバーでもあり、気候変動枠組条約から附属書I国の温室効果ガスインベントリの実務評価者に任命されている。IPCC1.5°C特別報告書のレビュー編集者。

<http://ccromseap.ipb.ac.id/web/profile/view/1>